

ポイント

HTMLのサイトマップをサイトに置き、XMLサイトマップも使おう

サイト内のすべてのページ、もしくは（何百、何千ものページがあるサイトの場合は）主要なページへのリンクが張られたHTMLのサイトマップ（sitemap《先頭が小文字》）があると、ユーザーにとって便利です。また、XMLサイトマップ（Sitemap《先頭が大文字》）を活用すると、検索エンジンがサイト内にあるすべてのページを発見する手助けになります。

- ✔ HTMLサイトマップはリンク切れなどを確認し、常に最新の状態を保つ
- ✔ HTMLサイトマップを作るときは、ただリンクを羅列するのではなくテーマごとにまとめるなど、整理して並べる

役に立つ404エラーページを用意しよう

時にユーザーはリンク切れしたリンクをたどったり、間違ったURLを入力したりして、サイトに存在しないページを訪れてしまうことがあります。このようなとき、ユーザーをちゃんとしたページに導くための[便利な404ページを作っておく](#)と、[ユーザーエクスペリエンス](#)を飛躍的に高めることができます。

404エラーページでは、サイトのトップページや人気のあるページ、関連性のあるコンテンツなどへのリンクを提供すると良いでしょう。Googleでは、自動的にたくさんの便利な機能を提供する404ウィジェットを提供しており、あなたのサイトの[404ページのカスタマイズ](#)にもご利用いただけます。また、Googleウェブマスターツールをご利用いただくことで、「ページが見つかりません」というエラーの原因についてもご確認いただけます。

- ✔ 404エラーページが検索エンジンにインデックスされないようにする
※存在しないページがリクエストされたときは、404 HTTPステータスコードを返すようにウェブサーバーを設定する
- ✔ 「見つかりません (Not Found)」や「404」というあいまいなメッセージだけを表示する、または404エラーページをそもそも用意しない、ということは避ける
- ✔ サイトのデザインにそぐわない404エラーページは使わない

ユーザーエクスペリエンス

製品やサービスなどの利用を通じて、ユーザーが得られる体験のこと。「楽しさ」「利便性」「快適さ」など、ユーザーが真に求めている体験を提供することが重視される

HTTPステータスコード

コンピュータ同士が通信において、サーバーからのレスポンスの意味を表現するコード。コードは3桁の数字が割り当てられ、番号によって意味が異なる

参考ページ

ウェブマスター向けヘルプセンター

<http://www.google.co.jp/support/webmasters/>

↳ [Flash and other rich media files](#) | 検索

↳ [便利な404ページを作るには](#) | 検索

↳ [404ページのカスタマイズ](#) | 検索